



名古屋で中部の可能性を思う —インバウンドを中心に

中部国際空港株式会社
代表取締役社長 友添 雅直

私の名古屋との関わりは40年近く前に遡る。大学を卒業してトヨタ自動車販売(現・トヨタ自動車)に入社し、研修のため名古屋の寮で4ヶ月お世話になることから始まった。

福岡と東京しか生活をした事のなかった私にとって、名古屋は見るもの聞くもの全て新鮮な驚きであった。例を挙げると、広い道路と多くの車線。栄の地下街の広大さ。中部地域の名所が近く、どこに行くにも車で便利。道路網もパーキングも充実。喫茶店ではコーヒーにピーナッツ。トンカツ、おでん、鍋物にも赤味噌。様々な名古屋めしがあるが、食べてみるとこれがなかなか旨い。会社が遅くなり食事に行きたいが店の閉まるのが早い。なんと健康的で不思議な街だと思ったことか。

その後、海外駐在や東京勤務など名古屋から離れる生活が続いたが、5年前に名古屋に生活の拠点を設けた。初めて来た時の驚きは当たり前の日常になった今、セントレアを任せ、改めて名古屋と中部地域に思いを馳せる機会を得ている。

ここ数年、海外からのお客様が増えている。現在は関東と関西への訪問が中心となり、その体験が日本のイメージを形成していると思われる。今後リピーターが増える中、日本人の私でさえ新鮮に思った名古屋の特徴は、海外の旅行者にも思い出に残り、新しい日本の発見に繋がる可能性を秘めている。

更に、中部地域全体の観光資源の豊かさは、日本各地のそれを凝縮したものと言っても過言ではない。北海道に負けないスキー場と雪。九州に負けない温泉と旅館。海の幸山の幸の美味しい食べ物と酒。歴史では公家社会よりもダイナミックな武家社会。他の追随を許さない産業文化。数え上げればキリがない。

未来に目を向ければ、サミット後の伊勢志摩の認知拡大、レゴランドや湾岸再開発。そしてリニア開通と名古屋駅の魅力向上。大規模展示場の整備など、その他多くのプロジェクトが検討されている。

今後、中部地域全体の高速道路も含めたインフラやアクセスがさらに整備され、認知度向上のための発信力が強化されれば、関東関西に対して埋没感のある中部も海外のお客様の目指す地になるチャンスが訪れると確信している。

地域の熱意で作られた空港インフラとしてセントレア自体も魅力向上の取り組みを進め、皆様のご支援を賜りながら、中部地域全体の発展に貢献できるよう一層の努力を重ねていきたい。